

SDGs未来都市等進捗評価シート

2018年度選定

広島県

2021年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

広島県 SDGs未来都市計画

—

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

広島県 SDGs 未来都市計画

(2) 2030年のあるべき姿

2016国際平和のための世界経済人会議におけるマーケティングの大家、フィリップ・コトラー教授の「愛を増やし、武器と憎しみの連鎖を減らす」の提言を踏まえ、平和で持続可能な国際社会に向けて、①民間セクターが公的課題の解決に貢献していくプロセスへの参画を促す取組、②若者の平和への参画を促す取組、③観光、留学生、空き家をキーワードとして、県下全域で、様々な持続可能な平和促進モデルを具体化する。これらのモデルを広島が有する平和のシンボル性を活用し、県内・国内・国外に展開するとともに、平和の取組みが自律的に生み出される仕組みを構築する中で、紛争終結地域や途上国をはじめ世界の経済の安定・発展に寄与して、2030年のSDGs達成に貢献する。併せて、これらの経験を踏まえたうえで、2045年に向けた、「核兵器のない平和な国際社会」が新たな国連の目標に位置付けられている。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）		2030年（目標値）		達成度（%）
1	SDGsビジネス事業化企業	2018年 0件	2020年 12件	2030年 20件			60%
2	県及び県の関係機関で平和を学ぶ人数	2018年 4864人（累計）	2020年 50650人（累計）	2030年 200000人（累計）			25%
3	エコツーリズムとピースツーリズムを融合した新たなツアーコースの数	2018年 0件	2020年 2件	2030年 5件			40%

(5) 「2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

県内大学生にSDGsビジネスについての学習機会を提供し、当該大学生が県内企業の訪問・インタビューを実施して執筆した記事を取りまとめたSDGsビジネスセレクトブックを制作し、県ホームページ等に掲載することで情報発信した。またブック事業の参画者を含む、県内のSDGsに取組む企業・団体、個人が参加するコミュニティを形成し、自律的で積極的な情報交換が行われている。

2020世界平和経済人会議ひろしまでは、広島が有する平和のシンボル性を活かし、政治、経済、国連・政府機関、大学、研究機関等の国内外の要人を招聘し、マルチステイクホルダーパートナーシップによって、SDGsを通じた国際平和への取組を加速するための方策について議論し、情報発信した。

また、SDGs都市間ネットワークの形成に向け、県内で実施されたSDGs達成に向けた有志を集めて課題解決に向けたワークショップを行うイベントで広島県の取組を共有した。

このほか、県内外、国内外に向けて県内SDGsの取組状況や平和の取組の発信・共有、意識醸成を図るため独自のウェブサイトを構築し、賛同者の拡大を図っている。

2020年は、2020世界平和経済人会議を含む事業のほとんどが新型コロナウイルス感染症の影響を受け、事業の縮小や中止を余儀なくされ、予定していたおりの成果は得られなかった。

今後は、ウェブ会議システム等の活用により、海外のほか、国内の移動が難しい場合の効率的で効果的な事業実施の方策を検討していく必要がある。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2018年～2020年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2020年目標値	達成度(%)
1	①平和の取組を生み出すプラットフォーム広島構築	国際平和のための世界経済人会議の開催を契機とするプラットフォーム広島の構築	2018年度 0件	2018年度 0件	2019年度 0件	2020年 1件	2020年 1件	100%
2	②ビジネスセクターのSDGsへの参画の促進	SDGsビジネス孵化支援助成件数	2018年度 0件	2018年度 26件	2019年度 55件	2020年 66件	2020年 20件	330%
3	③平和人材育成プラットフォーム構築	県及び県の関係機関で平和を学ぶ人数	2018年度 4,864人(累計)	2018年度 18,585人(累計)	2019年度 28,585人(累計)	2020年 50,650人(累計)	2020年 13,920人(累計)	506%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

現在、SDGs登録・認証制度の運用はないが、すでにSDGsビジネスの掘り起こし事業等により「事例の見える化」については取り組んでいるところである。今後は、SDGsに取り組む又は取り組むことを目指す団体、個人が連携・交流するための会議を開催していく。この参画者を増加させていくことで、他団体との連携を深め、それぞれの取組を加速していくよう働きかけていく。また、県と県内経済団体等が参画する平和の取組を生み出すプラットフォーム広島において協働して事業を実施することで、地元民間セクターの事業参画を促し、広島が持つ平和のシンボル性を活かしながら事業を展開、情報発信することで、国内外の賛同者を拡大し、資金獲得を目指す。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

①企業等のマルチステークホルダーのプラットフォームの構築に向け、2020世界平和経済人会議ひろしまの企画・運営に著名な企業の経営者等に関与していただくとともに、セッションにも参加いただいた。会議開催を機に、当該企業との連携関係を深め、経済界コミュニティを形成し、平和の取組を生み出すプラットフォーム広島を構築した。今後は、経済コミュニティに参画する企業の拡大を目指して、中央及び地元経済団体との連携を深めるほか、他分野のコミュニティに対して、プラットフォームプラットフォームへの参画を働きかける必要がある。

②県内企業等の取組をSDGsの観点から検討し、SDGs事業の発掘を行った。また、発掘された事業を冊子として取りまとめ周知した。引き続き、県内企業等のSDGsに係る取組を発掘し、プラットフォームへの参画を促す等、広島県内のビジネスセクターのSDGsへの参画を促進していく。

③2020年はコロナ禍の中、グローバル未来塾及びひろしまレクチャー等では中止せざるを得なかったが、オンライン学習講座の英語版の開講等により県内のみならず、国内外の若者へ平和学習機会を広く提供した。核兵器廃絶に関心のある世界の青少年に向けて、効果的な広報の展開が必要である。また、広島-ICANアカデミー及びひろしまジュニア国際フォーラムでは、2020年はコロナ禍の中、広島へ招聘することができなかったが、オンラインにより開講し、平和を発信できる国際平和貢献人材の育成を図った。

(4) 有識者からの取組に対する評価

- ・コロナ禍にもかかわらず順調に達成に向けて進んでいるのは、目標の定め方が良かったことが理由だと思われる。今後の進展も期待できる。
- ・「プラットフォーム広島に、今後は経済コミュニティから参加する企業の拡大を目指す」とあるが、今後こうした視点を反映し、新たな評価指標を設定する方向についての検討がされることを期待する。
- ・核兵器のない平和な世界の実現に向けた取組を進められているが、今後どのような事業展開を念頭に置いているのか具体的な計画の明示を期待する。